

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点目標としては、①学校生活の項目から、「児童生徒の年齢に応じた健康と性に関する指導の充実」を目指した取組、②進路支援の項目から、「進路支援の充実」についての2項目を挙げた。重点項目の評価については、「学校アクションプラン」に記載のとおり、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断して、2項目とも達成できたと考えている。

学校評議員からは、①の性に関する事柄においては、児童生徒たちの障害特性上記憶に残りにくいものなので、繰り返し指導することで児童生徒たちの捉えを十分なものにしていく必要性や、学園との連携指導のためにも性に関する指導内容や研修で得られた情報の共有を期待するといった意見を得た。②の進路支援に関しては、キャリア・パスポートは、児童生徒たちが頑張ったこと、もっと頑張ればよいことなどが目に見えるよいものであり、児童生徒、保護者、学校・学園の教職員で検討しながら進路学習を進めていけるとよいのではないかと意見をいただいたところである。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校総合評価の結果に基づき、本校の現状と課題について更に検討し、次年度へのよりよい方向性の模索と、目標の達成及び内容の向上を目指す。

- ・児童生徒の育成のためには、砺波学園とその施設隣接校である学校との連携の大切さを再確認することができた。来年度小規模化が加速する状況においては一層、砺波学園と連携し、ICTの活用を含め、児童生徒の実態に合う指導方法や教材を工夫して繰り返し指導を行いながら、学習の定着を図っていきたいと考える。
- ・進路支援に関して、キャリア・パスポートは、児童生徒一人一人の成長過程が分かり、自己理解をサポートしてくれるものなので、児童生徒、保護者、学校・学園の教職員で情報共有しながら積み重ねていく必要がある。
- ・学校アクションプランを含む様々な教育活動が、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたものとなるよう教育環境の整備に努める必要がある。児童生徒たちがそれぞれの目標を達成できる学校にするために、家庭や砺波学園及び地域と共に歩む学校として、教職員が協力して教育活動を推進することができるように、更に校内体制を整える。

8 学校アクションプラン

令和4年度 となみ東支援学校アクションプラン1 ー生活指導部ー	
重点項目	学校生活
重点課題	児童生徒の年齢に応じた健康と性に関する指導の充実
現 状	<p>本校の児童生徒は、障害の特性や生活経験の乏しさから、男女の体の違いが分からない、性器の洗い方が不十分で、性器に炎症などがある、こういった場面で自慰行為をしてよいかわからないなど、性に関わる基本的な理解が不十分で、それらに関する清潔への意識やマナーについても課題が多い。児童生徒は全員が福祉型障害児入所施設 砺波学園（以下学園）に入所し、男女共に集団生活をしている。</p> <p>そこで砺波学園の保健師と情報交換しながら、児童生徒が自らの健康を保持・増進し他者（特に異性）と良好な関係を築くためのスキル、性に関するマナーや必要な知識、清潔感を身に付けられるよう、指導内容を充実させる必要がある。</p>
達成目標	学校での指導
	<p>小学部及び中学部で年間3回以上の保健指導を行う。</p>
	学園との連携指導
	<p>年間2回 児童生徒の実態を基にした指導内容や支援方法について砺波学園と情報共有する機会をもつ。</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的、段階的に健康と性に関する指導を行うために、年間を通した指導計画を作成する。 ・外部講師を活用して、児童生徒に対する保健指導と、教員研修を行う。 ・学園と連携して指導に取り組むために、養護教諭と学園保健師との情報交換を密に行う。
達成度	達成率 100%
	<p>小学部で清潔や成長等に関する指導を3回、中学部で男女の体の違いや他者との関わり方のマナーについての指導を5回以上行った。</p>
	達成率 100%
	<p>性に関する指導内容の情報交換を学園保健師と養護教諭とで2回行った。また、複数の学園職員が外部講師による生徒への指導や教員研修に参加し、指導内容や方法を共有した。</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部では、3回指導を行った。5年生には、乳児・胎児の頃を知らせることで体を大切にすること、清潔にすることの大切さについて指導を行った。体の洗い方の指導では、性器の模型を使用したことで正しい洗い方に気付くことができた。 ・中学部では、薄着になる7月に合わせて、養護教諭がプライベートゾーンを守ることの大切さやルールについて特設授業を行った。また、生活単元学習等の授業で同様の内容を継続的に扱っている。 ・中学部の保健体育で学期ごとに実施している保健分野の指導では、2学期に授業担当者と養護教諭とが連携して授業を行い、思春期の体の変化、性器の名称、異性への関心等について指導した。生徒はやや恥ずかしそうな様子を見せながらも、「誰にでもある体や感情の変化だが個人差がある」ことを理解し、教師からの質問に答えたりワークシートに記入したりして真剣に学習に取り組んでいた。 ・11月末に、外部講師を招き、児童生徒たちが性的侵害を受けないために教員ができることについての研修や中学部生徒に対する保健指導を実施した。教員研修・保健指導ともに学園職員にも参加・参観してもらったことにより、指導内容や方法についての情報共有を図ることができた。 ・学園保健師と養護教諭との間で、健康と性に関する指導に使用する書籍や資料についての情報交換や、お互いの指導内容の共有を行った。 ・中学部の保健体育の健康と性に関する内容を、保健管理指導計画に反映し、明記した。
評 価	A 学校での指導、学園との連携指導ともに、目標数を実施することができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と学園とが、共に意欲的に指導に取り組んでいることが分かった。人権擁護にも関わるため、引き続き研修を行い、連携しながら児童生徒たちへ指導していったほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の前後での児童生徒の変化の有無を評価し、それを基に、より児童生徒の実態に合う指導方法や教材を工夫しながら、繰り返し様々な場面での指導を行い、学習の定着を図っていききたい。 ・次年度以降も、学園との情報共有を密に行い、計画的に指導をしていくことが必要である。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 となみ東支援学校アクションプラン2 -教務部-					
重点項目	進路支援				
重点課題	進路支援の充実				
現 状	<p>本校は、砺波学園に入所する小学部と中学部の義務教育段階の児童生徒が通う学校である。中学部卒業後は、となみ総合支援学校の高等部に進学する生徒が多いが、進学を希望しない生徒もいる。いずれの生徒の場合も、学園を退所した後の生活のことを考えると、本校在学中に大まかな見通しを段階的にもてるようにしておくことが必要である。</p> <p>しかし、教員の進路に関する知識は十分であるとは言えない現状にある。また、児童生徒が社会自立に向けた様々な学習に取り組む中で、日々の成長を実感したり現在の自分から将来の自分について考えたりすることができるよう支援していくことが望まれている。</p>				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>外部講師を招いた進路に関する研修会の実施</td> <td>進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成、集積</td> </tr> <tr> <td>年間2回</td> <td>児童生徒一人当たり年間5枚程度</td> </tr> </table>	外部講師を招いた進路に関する研修会の実施	進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成、集積	年間2回	児童生徒一人当たり年間5枚程度
外部講師を招いた進路に関する研修会の実施	進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成、集積				
年間2回	児童生徒一人当たり年間5枚程度				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いて、福祉、就労、教育の視点から進路に関する講話を聞き、児童生徒の進路指導及び支援に生かす。また、保護者、砺波学園に対して、必要な情報提供を行う。 児童生徒が自分を評価（自己評価、他者評価）したり目標やこれから取り組むことを考えたりすることができるようにするために、進路指導計画に記載された進路に関する行事等や進路に関する学習についてキャリア・パスポートを作成し、集積する。 				
達 成 度	<table border="1"> <tr> <td>達成率100%</td> <td>達成率100%</td> </tr> <tr> <td>外部講師による研修会 2回実施</td> <td>進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成枚数 児童生徒一人当たり5枚程度</td> </tr> </table>	達成率100%	達成率100%	外部講師による研修会 2回実施	進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成枚数 児童生徒一人当たり5枚程度
達成率100%	達成率100%				
外部講師による研修会 2回実施	進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成枚数 児童生徒一人当たり5枚程度				
具体的な取組状況	<p><外部講師を招いた進路に関する研修会の実施></p> <p>① 8月6日(土) PTA・学園保護者会合同研修会(講演会) 演題:「児童福祉施策の最新の動向と砺波学園の対応等について」 講師:松本 吉永 氏(富山県立砺波学園 園長)</p> <p>② 8月8日(月) 特別支援学校障害種別研修会 演題:「自立と社会参加を目指した計画的・系統的な進路支援の在り方」 講師:関口 利浩 氏(特別支援学校就労応援コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①では、最新の福祉制度における基本的な考え方や砺波学園の対応について理解を深めた。②では、進学、就職等、学齢期を終えてからの生活に向けて必要とされる力について改めて学んだ。 学部・学年の段階をより意識して、児童生徒への指導・支援に当たったり、砺波学園の児童生徒の担当者や保護者に対して連絡帳や懇談等を通じて進路に関する情報提供、情報交換を行ったりすることに研修で得た知識を生かすことができた。 <p><進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成、集積></p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画に記載された進路に関する行事等(中学部入学説明会、高等部学習体験会等)や進路に関する学習(生活単元学習「お手伝いをしよう(小学部)」「働くことについて考えよう(中学部)」等)について、キャリア・パスポートを作成、集積した。児童生徒が教師や友達と活動を振り返って活動時の写真に注目したり自分の言葉でシートを記入したりする姿が見られ、現在の自分や自分の将来について考えるきっかけとなった。 				
評 価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>外部講師を招いた進路に関する研修会は、目標数を実施することができた。進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成枚数は、目標数に達した。</td> </tr> </table>	A	外部講師を招いた進路に関する研修会は、目標数を実施することができた。進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成枚数は、目標数に達した。		
A	外部講師を招いた進路に関する研修会は、目標数を実施することができた。進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成枚数は、目標数に達した。				
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 進路については、児童生徒、保護者、学校・学園の教職員で検討しながら進めていけるとよい。キャリア・パスポートは、児童生徒たち一人一人の成長過程が分かるとともに、頑張ったこと、もっと頑張ればよいことなどが目に見えてよい。将来自分のためになるものであると思う。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 今回得られた福祉制度や福祉の現場に関する知識、また自立と社会参加を目指した計画的・系統的な進路支援に関する情報を踏まえた進路指導及び支援を行っていきたい。 キャリア・パスポートは、進路指導計画に基づいた作成部分を維持していくことで、進路にかかわる学びをたどる記録としても有効なものになると考えられる。 				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)